

バイオ燃料の生産システム構築のための技術開発事業

令和2年度概算要求額 45.0億円（27.2億円）

事業の内容

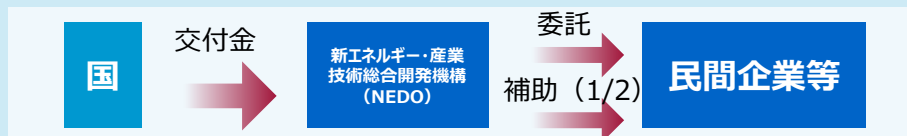
事業目的・概要

- バイオ燃料は植物等を原料として製造される化石代替燃料であり、地球温暖化対策やエネルギー源の多様化に貢献します。
- また、国連機関において、2020年以降は国際航空分野のCO2の総排出量を増加させないという削減目標が設定されていること等を背景に、バイオジェット燃料の必要性は高まっています。
- バイオジェット燃料に関しては、世界的に、原材料の食料競合や環境影響等の問題が指摘されているため、そういった問題のない持続可能性の高いバイオジェット燃料の生産技術を確立することが必要とされています。
- また、当該技術を確立できれば、自国資本で国内ないし近隣諸国に原料・燃料生産拠点を確保することが可能となり、燃料調達のリスク低減や海外依存脱却にも繋がるため、エネルギー安全保障の観点からもこの技術は重要となります。
- 本事業では、持続可能性の高いバイオジェット燃料の商用化に向け、ガス化・FT合成技術（バイオマス原料をH2とCOのガスに変換し、触媒を用いてそのガスから液体燃料を合成する技術）やATJ（アルコールtoジェット）技術、微細藻類培養技術に係る実証事業を実施します。また、微細藻類は、CO2から燃料等を生産するカーボンリサイクル技術としても有望であることから、製造コストの低コスト化等に加えてCO2利用の高効率化にもフォーカスして事業を行います。

成果目標

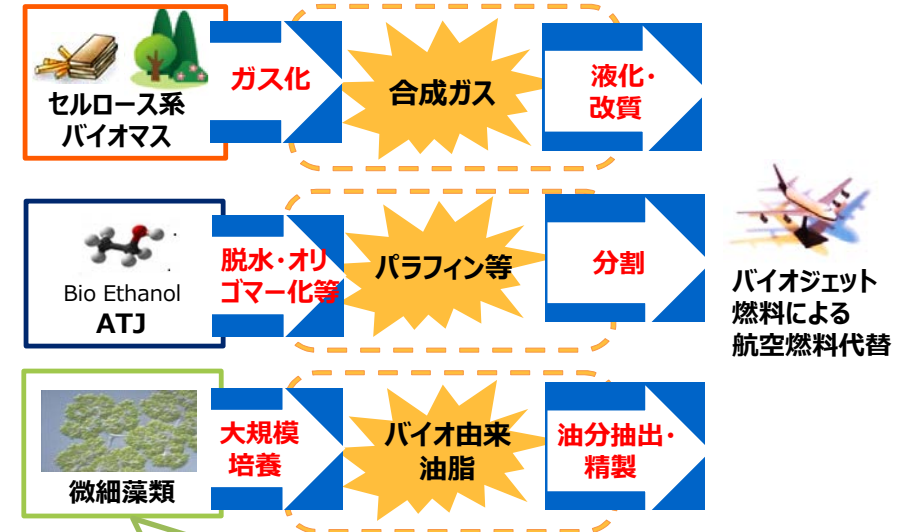
- 2030年頃の商用化を見据え、2024年度末までにバイオジェット燃料の一貫製造プロセス確立を目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

バイオジェット燃料生産技術開発



微細藻類カーボンリサイクル技術

